第３３回流域委員会の審議骨子

◎第３３回「九頭竜川流域委員会」が平成１９年２月２６日に福井県国際交流会館で開催されました。

これまでの九頭竜川流域委員会の経緯

	開催日程	委員会での審議内容
平成14年	第1回（H14.　5. 9） ～ 第8回（H14. 12. 26）	九頭竜川流域委員会設立（流域委員会の規約等） 現地視察（九頭竜川水系の現状説明等）について 九頭竜川水系（治水・利水・環境）の現状と課題について　等
平成15年	第9回（H15.　1. 30） ～ 第17回（H15. 12. 3）	治水・利水の目標設定にあたっての基本的な考え方 河川環境の整備と保全に係わる目標設定の考え方 河川整備計画における治水計画の考え方（案）【検討対象洪水の選定と評価】 九頭竜川・日野川・足羽川の治水整備メニュー（案）　等
平成16年	第18回（H16.　1. 29） ～ 第26回（H16. 12. 22）	河川環境、利水・利用の課題と対応方針（案） 福井豪雨の報告及びダムの効果について 福井豪雨を踏まえた治水計画 河川激甚災害対策特別緊急事業の採択について 九頭竜川水系の今後の河川整備について【直轄管理区間・指定区間】　等
平成17年	第27回（H17.　1. 25） ～ 第29回（H17. 10. 28）	九頭竜川水系の今後の河川整備について 九頭竜川水系の今後の河川整備に関する説明結果報告について 足羽川の正常流量について 足羽川ダムの新旧ダム計画（案）の比較について　等
平成18年	第30回（H18.　1. 31） ～ 第32回（H18.　8. 18）	足羽川の瀬切れ対策検討結果について 新旧ダム計画に対する関係自治体等の意見・要望について 足羽川ダム計画の目標と規模について 住民意見の聴取について 九頭竜川水系河川整備計画（原案）【直轄管理区間・県管理区間】について　等
	第33回（H19.　2. 26）	**九頭竜川水系河川整備計画【国管理区間・県管理区間】の策定について**

第３３回流域委員会の審議骨子

◎ 当日は 19 名の委員が参加し、河川管理者から「九頭竜川水系河川整備計画［国管理区間・県管理区間］の策定」について報告が行われました。九頭竜川流域委員会は、今回の報告をもって終了となりました。

1．九頭竜川水系河川整備計画［国管理区間・県管理区間］の策定について

「九頭竜川水系河川整備計画［国管理区間・県管理区間］の策定」に関して報告された内容は、以下に示すとおりです。

⑴ 九頭竜川流域委員会の経過
⑵ 河川整備計画策定の流れ
⑶ 河川整備計画（原案）に対する意見聴取の実施
⑷ 河川整備計画（原案）に対する意見
⑸ 河川整備計画（案）に対する意見
⑹ 河川整備計画の策定

以上の報告の後に、本日が最後の九頭竜川流域委員会となるため、委員の皆さんより、今までの九頭竜川流域委員会の感想や、今後の九頭竜川水系に望むこと等について意見をいただきました。

1．流域委員会の中で最大の出来事は、平成 16 年７月の福井豪雨によって、ずっと議論してきた戦後最大規模の考え方が崩れたしまったことである。そういう中で、流域委員会では、これ以上の知恵を出すのは難しいところまで議論できたのではと思う。
2．福井豪雨によって、私達の英知でははかり知れないほどの威力が災害にはあるのだということを思い知らされた。流域委員会で私達が英知を出してやってきたことについて少しでも評価していただけたらと思う。
3．治水のために足羽川ダムを整備することは、洪水から生活を守る上で良かったことと思う。
4．近年、某電力会社の施設でデータのねつ造が発覚する事件がありました。九頭竜川の発電取水によって流量が減少している区間についても、過大な取水がないよう国土交通省でしっかりと管理をお願いしたい。
5．足羽川ダムを整備する際は、建設前後でモニタリングを実施し、そのモニタリング結果は住民にしっかりと公開することが重要である。

第３３回流域委員会の審議骨子

６．今後、九頭竜川流域の環境・文化を守っていくために、流域を研究する機関をつくり、その機関が若手研究者の育成の場になればいいと思う。

７．流域委員会には、治水・利水・環境のメンバーが集まったが、議論は治水に偏っていたような気がした。利水に関する意見として、この流域委員会を契機に、慣行水利権の許可水利権化が進めばと願っている。

８．足羽川ダムができれば安全というわけではなく、内水被害も極めて心配な状況であり、その対応も併せてお願いしたい。

９．河川整備計画を考えていく上で、治水・利水・環境のバランスをとるのは非常に難しいことである。

１０．「おいしい水」というのは、理化学試験の基準値におさまっていればいいというのではない。水道水を供給する立場として、そのようなことも考える機会をこの流域委員会で得ることができた。

１１．これから足羽川ダムを整備していくが、まだまだ不安材料はたくさんある。流域住民の不安を取り除いてもらうためにも、必ず説明会等をお願いしたい。

１２．九頭竜川流域委員会の特徴は、国と県が共同で事務局を行ったことである。流域の問題は、河川管理者だけでは解決できないこともあるので、この流域委員会での取り組みを活かして、河川・治山・農林等が連携して問題解決に努めていって欲しい。

１３．今後、河川整備計画に従って実際に整備をしていくが、その際、環境の変化や効果についてモニタリングを実施し、その結果についても皆が情報を共有できるようにしていって欲しい。

１４．次世代の人たちに川への関心をもっと持ってもらうことが非常に大切であり、整備計画の中に「河川に関する学習」とあるように、このような活動の中で取り組んでいくことが重要である。

第３３回流域委員会の開催状況

第３３回流域委員会の審議骨子

１５．九頭竜川流域委員会は国と県が一体となって進めてきたことから、もう一歩進んで福井方式みたいな形の委員会を確立したかった。この委員会が公開の場で行われ、広く議論をされ、多くの人たちに伝えることができたことは良かった点である。

１６．足羽川ダムについては今後も整備の行く末を見守りたい。ダムができれば安全ということではないので、今後、危機管理についても考えていくことが重要である。

１７．漁業関係者には河川改修をする度に漁場が悪化するという思いがある。また、魚が遡上・降下できないような横断工作物や、機能しない魚道が見られるので河川管理者に改善の協力をお願いしたい。

１８．足羽川ダムについては、同じ洪水調節専用ダムである島根県の益田川ダムで蓄積されたデータを活かして整備していって欲しい。また、ダムのこと、環境のこと等についても情報公開をお願いしたい。

１９．現時点で環境に良いと思ってやったことが、将来的に環境問題となってしまう場合がある。この点で大切なことは、しっかりとデータを収集し、計画したことをきちっと評価することである。そして、その評価結果を次世代に残していくことが重要である。

２０．現時点で洪水の災害から守る有効な手段はダムであると考えている。水没地域の山村を取り巻く環境は厳しい状況である。そのため、足羽川ダムを整備する際は、水没地域者の生活再建を十分に考えて欲しい。

２１．川には貴重な生物がいるかどうかではなく、普通の生物が普通にいるということが重要である。21 世紀は特別な生物を対象にするのではなく、普通の生物が普通に生息する川を目指すべき。そのためにも、川のデータをしっかりとって、分析・評価をしていくべき。

第３３回流域委員会の開催状況

第３３回流域委員会の審議骨子

２２．環境は洪水と違って問題が公になるのに時間がかかる。ダムを整備して環境について評価する場合もその点を考慮していくべき。

２３．今までを振り返ると大変感慨深いものがある。足羽川ダムについては、非常に長い時間をかけて議論してきたので、皆さんの意見を反映させてできるだけ早く完成していただきたい。

２４．電車に乗って九頭竜川を眺めながら委員会に参加してきた。川をしっかり見ることによって愛しい気持ちがわいてきた。そのことを大変感謝している。

２５．九頭竜川流域委員会のように住民の声が計画に反映される仕組みについては、今後もきちっと継承していっていただきたい。

２６．足羽川ダムと益田川ダムとでは、同じ洪水調節専用ダムでも立地条件が違うため、土砂の堆積など今後の維持管理に不安を感じる。

２７．今後も行政と市民が連携・情報交換していく仕組みを継続していき、ゆくゆくは各省庁横断型の仕組みづくりにつなげていけるよう、この福井県から発信していけたらと思う。

２８．福井豪雨を経験して、この世の中に絶対的なものはないということが分かった。足羽川ダムが洪水調節専用ダムであることを一般の人たちは案外知らないので、その点の広報もお願いしたい。

２９．九頭竜川流域委員会では、国と県、流域委員会と河川管理者との共同によって、九頭竜川水系を幅広く議論することができたと思う。

３０．九頭竜川流域委員会として、足羽川ダムをはじめ、九頭竜川水系河川整備計画の内容が鋭意進むことを願い、今後の推移を見守っていきたい。

第３３回流域委員会の開催状況